

■帯広畜産大と室蘭工業大は引き分け。北海道科学大が5年ぶり勝利。第2節

アメリカンフットボールの第50回北海道学生選手権第2節は9月1日、江別市の札幌学院大グラウンドで1、2部リーグの各1試合を行った。1部は帯広畜産大と室蘭工業大が14-14で引き分けた。2部の札幌学院大-北海道科学大は、札幌学院大の途中棄権により北海道科学大が28-7で勝利した。北海道科学大の公式戦勝利は2019年2部リーグの北海道医療大戦以来で5年ぶり。札幌学院大は、大会規定で2部の最下位が決定した。

前年3位の帯広畜産大と同5位の室蘭工業大の試合は、追いつ追われつの大接戦になった。

先手を取ったのは室蘭工業大。第1Q4分。自陣46ヤードからの最初の攻撃シリーズでRB富樫司（4年、札幌清田高）のランと、QB原田颯太（2年、岡山・倉敷天城高）からWR本間慧（2年、小樽桜陽高）へのパスなどで前進し、最後はRB富樫の4ヤードランで先制した。帯広畜産大も同11分、DL山田雄太（2年、旭川永嶺高）が室蘭工業大QBをサックし、苦し紛れのパスをDB後藤永（1年、札幌西高）がインターセプト。そのまま18ヤードのリターンTDで7-7の同点とした。



第2Q2分、室蘭工業大が60ヤードのドライブを重ねて、再びRB富樫の3ヤードTDランで勝ち越した。帯広畜産大も同8分、自陣38ヤードからの攻撃シリーズでQB桂田陽向（3年、福井・若狭高）のキープなどで前進し、最後はWR卯野優翔（3年、兵庫・洲本高）への13ヤードTDパスで14-14の同点に追いついた。

後半は守り合いになり、帯広畜産大はDL佐々響己（3年、愛知・南山高）のQBサックとLB安澤十野（2年、帯広柏葉高）のロスタックル、室蘭工業大もDL船木翔斗（4年、札幌清田高）のファンブルフォースとLB友田悠斗（3年、岡山・玉島高）のリカバー、DL俵谷徹（4年、北海道科学大高）のQBサックなどで、互いの攻撃を封じた。第4Qに帯広畜産大が2回、室蘭工業大が1回、勝ち越しFGのチャンスをつかんだが、いずれも失敗して引き分けた。



帯広畜産大の西龍一郎監督は「勝ちきれなかったが、人数が少ない中で後半の失点を防いだ。1年生の活躍がこれからにつながる」と収穫を強調。チーム事情で急きょQBに抜擢された桂田は「TDパスは、卯野がうまくコースに出てくれ、落ち着いて投げられた」と喜んだが、兼務するKとして「2本のFG失敗は、慣れないグラウンドに足を取られた。引き分けの原因」と悔しがった。

一方、室蘭工業大の半沢伸太郎監督は「攻めきれなかった。無駄なイエローフラッグが多かった。残り4試合は、流れを切らさないためにもノーイエローで行きたい」と巻き返し宣言。2TDのRB富樫は「納得できるのは最初のTDだけ。OLが頑張ってくれ、スクリメージを越えてからが自分の仕事。残り4試合、もっとパワフルな走りを見せたい」と決意していた。

第1試合は北海道科学大が第1Q8分、LB広島拳（4年、札幌新陽高）のインターセプトと38ヤードのリターンで得た敵陣5ヤードの好機に、RB竹内連也（2年、札幌工業高）の2連続ランで先制。第2Q開始直後には、札幌学院大のスナップミスでセーフティーの2点を拾い、同8分にはDB佐々木海斗（1年、札幌静修高）の14ヤードイン

ターセプトリターンTDで加点した。札幌学院大も同10分、QB仲上日陽（2年、東海大札幌高）が185センチ、94キロの体と味方の好ブロックを生かして45ヤードTDランと追い上げ、15-7で前半を折り返した。



第3Qは選手11人の札幌学院大に疲れが目立ち、故障選手が相次いだ。北海道科学大がRB竹内連の50ヤードランと、QB藤川拓斗（4年、浦河高）からWR今野裕太（2年、天塩高）へ41ヤードパスを決めて28-7とリードを広げると、第3Q終了後に札幌学院大がけがによる人数不足で途中棄権を申し出た。

部員不足から2年前は合同チームでオープン参加の屈辱も味わった北海道科学大だが、今季は部員20人と体制が整ってきた。土屋竜馬コーチは「勝利まで随分と時間がかかった。RB竹内蓮は、昨年冬に同級生に声をかけて11人を勧誘したチーム復活の立役者。TDも狙っていたプレーでうれしい。この勢いで優勝を狙う」と力を込めた。2TDランのRB竹内連は「エンドゾーンに駆け込んだ時、風が吹き抜けるのを感じた。気持ちが良かった」と振り返りながら「工学部の級友100人全員に声をかけて11人入部した。たくさん部員がいることのありがたみを実感した」と声を弾ませた。（広報委員 塚田博）